

## 令和3年度第1回釜石市立図書館協議会の開催結果

- 1 開催日時 令和3年5月27日（木）午後2時から午後3時まで
- 2 場 所 釜石市立図書館2階視聴覚室
- 3 出席委員 7人  
野田摩理子委員、藤原由香里委員、柴田渥委員、足立佐智子委員、村上修委員、市川淳子委員、菊池一章委員
- 4 欠席委員 佐藤悦男委員、万城目千佳代委員
- 5 事務局 5人  
菊池公男市民生活部長、平野敏也まちづくり課長、川畑広恵図書館長、遠野英希館長補佐、平野愛梨会計年度任用職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 経過と結果

### (1) 開会

館長が開会し、委員9人中7人が出席し、当協議会運営規則第4条第2項の規定により本会議が成立していることを報告

### (2) 市民生活部長あいさつ

どうもお忙しいところ、また急な雨の中、おいでいただきまして、本当にありがとうございます。市民生活部の部長の菊池と申します。令和3年度の第1回の図書館協議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶したいと思います。本日委員になって頂きました方、委嘱のほうお受けいただきましてありがとうございます。今後2年間、図書館の運営にあたりまして、皆さまのお力をお借りしながら、より良い図書館にしていきたいと思っております。よろしくお願い致します。本日は図書館の運営方針、それから事業計画、蔵書数等の報告、それから資料収集方針、これらについての議題があるようですので、そちらのほうもよろしくお願ひしたいと思います。ちょっと話題が変わりますけれども、皆さんいろいろと気になっているのはコロナの話だと思いますけれども、大体65歳以上の方については、おおむね7月の1週～中ごろまでには全員できれば接種したい方向で進んでおりまして、集団接種の方も日曜日だけだったのが、今は土、日ともやっています。最初の頃は120、30人だったのをほぼ倍で一回あたりやっております、どんどんどんどん進んでおる状況でございます。体制の方も十分な体制をとっておりますので、ほぼ65歳以上の方々の接種は進んでいると思うんですけども、ただ、今度接種したからといってですね、安心しますと今新しいイギリス型、それからインド型が入ってくるんですけども、ここ7月以降感染の状況見ますと、ちょっと仙台とかですね、そこにやはり行ってしまふ。そこでウィルスをもらってしまうというパターンの動きが見えております。今日学校関係者の委員さんもいらっしゃいますけれども、学校の中での感染っていうんですかね、こちらに住んでいる方なんですけれども、勤務先が内陸の方ということで、どうしても内陸の方が感染の割合が多いので、もらってしまう。そう

いう事例が出ておりました、ただ県内の情報もすぐ入ってこないんで、その間にタイムラグがあって、そういうところで、お子さんが通っている学校のお母さんの中で・・・図書館なんかもそうですけれども、感染対策は万全を期しているんですが、一人一人の意識が最後は大事だとつくづく最近思っております。どんなに行政が願います、あるいは地域の方がこうしようと思っても、最後は個人の意識だとひしひしと感じておりました、今回の感染したご家族中にもマスクをしない方がいらっしゃる、そういう事例も見えてきているので、これから図書館は空間的に難しい面もありますが、ほんとは最新型の空気清浄機とか新しいいろんな設備を整えられるんですが、いかんせん施設自体が古いものですから、すぐはできないので最大限努力しながらやっていますけれども、皆さまも図書館の本を借りるにあたってはマスクとか、基本的な距離を取っていただくとか、皆さんで気を付けてウィルスに触れないようにしていただきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。それでは本日は活発なご意見をいただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。簡単ではございますがこれで挨拶とさせていただきます。

### (3)委員長挨拶

みなさんこんにちは。委員長という大役をお引き受けしました、野田摩理子と申します。よろしく願いいたします。この会では長く携わらせていただいているんですが、まだまだ勉強不足の点がいっぱいあります。それで、みなさんのいろいろな意見を聞きながら、そしてこの会がスムーズにいきますよう、ご協力をお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願い致します。

### (4)議事

野田委員長が議長となって議事進行し、議題はいずれも承認された。

(主な質疑・意見等は以下のとおり)

### (5)閉会のことば

遠野館長補佐が閉会を宣言した。

## 8 議事における主な説明・質疑・意見等

### (1) 令和3年度釜石市立図書館運営方針と事業計画についての質疑・応答

⇒なし

### (2) 令和2年度釜石市立図書館蔵書数等の報告についての質疑・応答

(菊池委員)

参考までに8ページの6の図書館こどもまつりの多読賞の冊数の決定の基準というか根拠というか、っていうところを参考までに教えていただければということと、最高が277冊ということで、驚いておりますが、これは妥当な数なのかとか、そういうところをどうとらえてらっしゃるのかなあということで、今学校現場、多読賞がなくなっているところも

結構あったりしまして、いわゆる借りる冊数だけを増やして中身を読んでないということがあったり、逆にとにかく質より量で本に触れさせることが、捉えかたもあるんですけども、図書館としての多読賞の考え方っていうのをお聞きできればということで、お願いします。

(館長)

多読賞を100冊とした基準というかそちらのほうはちょっと私も不勉強で伺っておりませんが、数年前から児童、幼児とそれから中学生を対象に行っております。意外と100冊以上の方が多くて、表彰の対象者が30人前後になっています。多い方はやはり絵本などですね。毎週土日のどちらかに来られて、一人一回5冊まで借りられますので、5冊を借りて毎週来ていると、結構な数には年間ですのですね、なるということなんです。やはりもちろん一般の方でも常連さんはいらっしゃるんですが、幼児とかお子さんでも家族ぐるみで常連さんが結構いらっしゃってですね、その子どもさんたちがやはりただ持って行って返すのではなくて、ちゃんと絵本とか本の内容をこちらに伝えてくれたりですとか、あとは「探す」シリーズや「～のひみつ」とか、「好きな作家がいるんですよ～」というお話をしてくれたり、連続して読まれているということで、図書館としましては、読書内容の伴った回数であり、対象者であるというふうに見受けます。

(菊池委員)

本のジャンルっていうか種類と言いますか、やっぱり絵本とかそういう読み聞かせとか、サクッと自分で読めるようなものが多いっていう感じですか？

(館長)

幼児の方に関しては絵本ですし、生徒さんに関しては児童書のひみつシリーズであったりとか、そういったものが多いようです。図鑑なども多く借りられます。

(菊池委員)

表彰者37人の中で5、6年生、高学年になってでも対象者がいるものですか？

(館長)

はい、おります。小学校までは、低学年から続けて来られているお子さんが高学年になりそのまま多読賞を取られているような形ですね。

(菊池委員)

高学年になるとさすがに絵本ではないでしょうから、高学年なりの本を読んで100冊超えるとなるとかなり読書家っていう？

(館長)

そうですね。人気があるのはやっぱりひみつシリーズとか物語のシリーズとか、あとは虫とか動物とか自然分野のもの、伝記とかが多いようですね。

(菊池委員)

となると多読賞狙ってっていうよりはホントに本が好きで、結果として多読賞になったっていう子どもさんっていうこと？

(館長)

表彰で差しあげてるのはあくまでも表彰状で誰々さんは年間何冊読みましたっていうのだけなので、副賞もございませんので、全然狙ってるっていうのはないかと認識しております。

(菊池委員)

きっかけづくりっていうことで。わかりました。ありがとうございます。

(野田委員長)

コロナの為に本を借りに来る、そういう人が多いんですかね？どこにも行かれないっていうことで。

(館長)

高齢者の方が逆に外に出ないようにして来られませんでしたと言う時期がありましたが、家族連れの方はさっと来てさっと本を選んで、パッと帰るっていう傾向がございます。

(野田委員長)

いろんな図書館でいろいろなイベントやってるときに、人数制限っていうのはあるんですかね？1回に5人とか3人とかっていう形の人数制限があって、っていうことですかね？

(館長)

そうですね、まず1階の広い閲覧席のほうは6席あったテーブルの椅子を今2つの椅子に減らして対応しておりますし、カウンターのパテーションはボランティアさんに作って頂きまして、その後、閲覧席の机の上にもパテーションを置かせて頂いております。講座に関しましても、今まで例えば40人入場の講座をコロナの対策本部の方から半数にするようにというような指示もございますので、例えば40人でやっていた講座ですと20人までで募集して、多少当日5人くらいはお受け入れはしますが、クリスマス会、こどもまつりに関しても、基本的に参加したい方は前もっての予約登録ですね、それから、一昨年末での人数の約半数を目途に募集をかけております。

(柴田委員)

ちょっと質問します。現在、ボランティアの方たち、登録ということで、大体何名ぐらいいらっしゃるものなんでしょうか？

(館長)

おかげさまで、年1回の蔵書点検の時に新たに参加して下さる方が増えるんですけども、現在は30人ちょうどの登録になっております。

(柴田委員)

ちょっと余談ですけども、子どもが小学校のうちとかね、意外と低学年のとき、親子でね、図書館を慣れ親しむということについては、非常に家庭の中でも共通の話題が生まれるので、すごくいいことだなあとおもいますけどね、もしかしたらどんどん小学生とか子ども達が大きくなって、そういう人たちはどうなのかなっていうふうに考えたりしましたけども。

(足立委員)

10ページの上から2番目の(4)第1回ビブリオバトル in としょかん。これで紹介された本は、図書館に前もって準備しておいてるものなんですか？事前にこういう本が紹介されてるって聞いて準備されてるのか、それとも終わってから準備するのかなと思って。

(館長)

実はこちらは書店さんの発案ではじめられておまして、第5回までは書店さんの方でやっておりました。ですので、うちのほうでバトンタッチして図書館で行うにあたりまして、それまでの記事を掲示しまして、それまでの紹介された本はできるだけ図書館で備えるように購入したり、閉架書庫から出したりという対応をいたしました。当日発表者が何を発表するのかわからないというルールがあるので、発表後は紹介された本は可能な限りこちらの方で購入してご準備いたしております。

(柴田委員)

ちょっと中ほどに、図書館の職員の方々が出向いてですね、ボランティアと一緒にDVDの上映したり、本の読み聞かせとかしたりしてますよね？そういうことに関連したことなんですけど、ご承知の通りコロナ禍の中でいろんな活動が制約されていて、各地域ではやっぱりなかなか出かけられない高齢者がすごく非常に増えておまして、そういう時に例えば図書館の職員の方々にそういうDVDの上映とかそういうものをお願いするというのが果たして可能なかどうかちょっと参考のために伺いをしたいなというふうに思いますが。

(館長)

元々こちらの4番の出張図書館サービスというのはですね、図書館にあります、視聴覚ライブラリーというのがあってですね、そちらのDVDを活用するということから始まっております。今のところは回っているところは、例えば子育て支援センターであったりとか、それから今までは仮設住宅であったのが、一昨年から復興住宅に変わったりしています。あとは、各地区生活応援センターのご依頼で集会所があってその方たちが来てもいいよとなれば伺いたいと思っておりますが、一昨年まで行っていた老人施設に関しては、コロナの関係で令和2年度は来ないで下さいということですのでね、なかなか伺えずにいるところです。国立療養所の方も今までは3、4人で伺っていたんですけども、最小限の人数でということで、図書館から一人と、ボランティアさん一人ということで、最小限の人数で動いております。一番怖いのは、ウイルスをもらったりやったりっていうのが一番恐れることなので、図書館から出張サービスで来てほしいという需要と供給が合えば出来る限りは伺いたいとは思っています。

(柴田委員)

いろいろこの件につきましては、例えば各地域でね、ほんとは実際には困っていることがすごく課題としてあるわけですよ。それを図書館の皆さんに協力をいただければ、来ていた

できれば図書活動が定着して自分たちのものになっていくのかなって、ちょっと思ったものからです。

(野田委員長)

デッキをお借りしてっていうことはできるんですよね？

自分たちでやるからDVDとデッキを貸してくださいっていう感じのことはできるってことですよね？

(館長)

視聴覚資料としましては、DVDなど様々ございますし、それからプロジェクターであるとか、デッキであるとかも貸し出し可能となっております。

(3) 令和3年度釜石市立図書館資料収集方針について

(足立委員)

2番のリクエストがあったとき、応えられないときは丁寧に説明するっていうお話でしたが、リクエストした方には一つ一つお返事してるんですか？

(館長)

リクエストというのはですね、図書館にない本を、購入してくださいとか他の図書館から取り寄せして下さいというシステムになっております。ほとんどは文学であったり、市立図書館として購入するかあるいは書架にないものを他の図書館から借りてお客様に渡すっていう方式をとるんですが、その中には内容が暴力的であったりとか、ちょっとこう、市立図書館としての蔵書としてどうかなっていうものがあるお断りするときは、その旨を直接購入担当がリクエストされた方にお電話するなり、ご説明して「今回はすみませんがうちの収集方針に則って審議した結果購入はできません」というふうにお答えするようになっています。

(4) その他

(柴田委員)

良かったことを言います。図書館がここにできてからずっといろいろな形で関わって来ておりますが、ここ数年は高齢になってしまって、なかなか歩くのが大変になってちょっと全然来ないでいたんですが、この間、孫と一緒に図書館にほんとに久しぶりに来ました。その時に感動して帰ってきました。つまり、スーパーに行くと、手押しカートありますよね。図書館の中にもあったんですよ、本を選ぶのに。私すごくね「ワーッ、こんなものがあるんだ」と思って、すごく助かりました。本を選ぶのにもね、楽ですごく良かったなと思います。すごくいい物だと思います。

(野田委員長)

やっぱり体が不自由になってくれば足が遠のくのが、そうですね。ただインターネットが若い人達は見られるんでしょうけど年配の方まではどんなもんかね。何か、広報がまいしか

何かちょこっとでもこういうのあります、みたいなことを載せてもらえればどうなのかなって、今ふと思いました。ただ、3台ぐらい。でも3台でも違いますよね。本を持って歩かなくて済むでしょう。

(館長)

ご意見ありがとうございました。カウンターにおります若い職員たちがよく来館する親子の様子を見ておまして、「お子さんが、家族分の10冊も選ぶ絵本を持って歩いて、なおかつ返して借りてという状態がすごく大変そうだったので、カートを買えませんか？」という意見があってですね、幸い年度末に予算のやりくりをすることができましたので、一番利用者さんが使いやすいものをと館内で選定をして買わせていただきました。

(市川委員)

初めて委員として参加させて頂いて、委員になったら言いたいなと思ってたんですけども、世の中いろんな面で多様性っていうところキーワードになって、図書館も、本を借りたり貸したりするだけでなく、展示とかいろんな良い利用の仕方してますよね。私は保健福祉士をやっていて、さまざまな事業に必ず一緒に参加させて頂いてるんですよ。やはりいい事業は、先ほどの広報かまいしってさっきおっしゃってましたけども、せっかくなので市民の皆さんに発信するという機会があってもいいと思っています。そうすることによって、若いお母さんたちとか、ここで出会うだけじゃなくって、広報を通して小さいお子さんがいても図書館に行ってもいいんだ、とか。ぜひ今年度は周知の工夫っていうのをしていただきたいなと思います。

(館長)

ありがとうございます。私どもの方でも、コロナ対応とかで手が回らないところでもあったんですが、やはりホームページとかですね、もうちょっと見やすく、最新の情報を、今おっしゃっていただいたようなさまざまな方法で周知して、多くの皆さんに利用していただければと思っています。今後の対応として心がけます。ありがとうございます。